

## 運輸交通部会長報告

11月1日、県建設部との意見交換会を開催いたしました。秋田県建設部から小川智弘部長、佐藤和義建設技監、白井正興港湾技監をお招きし、当所より辻副会頭、運輸交通部会員12名が出席いたしました。小川部長から「地域活性化に向けた交通インフラについて」と題し講話いただいた後、「地域活性化に向けた施策展開について」をテーマに意見交換を行いました。



左：白井港湾技監 中：小川部長 右：佐藤建設技監

### 《小川部長の講話内容》

#### 1. 秋田港と秋田自動車道を結ぶアクセス道路(秋田港アクセス道路(仮称))について

- ・ 都市計画の変更に向けて、10月に住民説明会を実施した。今後、県市双方の都市計画審議会の開催、都市計画決定の告示、事業認可手続きを経て変更手続きが完了する予定である。
- ・ その後、内部協議、外部評価、国への説明等の段階を踏み、全ての条件が整ってから事業化となる。その際重要となるのが、皆様からの道路整備に対する要望である。

#### 2. 県内高速道路ネットワークについて

- ・ 大館能代空港から国道へのアクセス向上、移動時間短縮が見込まれることから非常に重要な区間と認識し、鷹巣西道路の整備促進を図っている。
- ・ 国では、高速道路の2車線区間について、交通量が少ない区間においても、物流における時間信頼性及びリダンダンシー確保の観点から、4車線化の整備を検討している。県としても、秋田自動車道4車線化について国に働きかける。

#### 3. 道路整備に関する国の動向について

- ・ 2018年度、道路法等の一部改正を踏まえ、「重要物流道路制度」が創設された。
- ・ 本制度は、平常時・災害時を問わない安定的な輸送を確保するため、物流上重要な道路輸送網を国土交通大臣が指定し、機能強化、重点支援を実施するもの。
- ・ 県では、2018年12月頃までに既存道路を対象に重要物流道路案を選定する。(以降、国土交通大臣が指定)。それ以外の計画路線は2019年夏頃までに選定する予定。
- ・ 現時点では、県内の主要物流拠点及び災害物流拠点と基幹道路との最短ルート等を調査している段階であり、なるべく多くの道路が指定されるよう選定したいと考えている。

#### 4. クルーズ船の受入環境について

- ・ 現在、1隻しか着棧できないため、観光のトップシーズンにおいて、クルーズ船の寄港を断っている例も見られることから、クルーズ船2船の同時接岸が可能となる岸壁整備を早期に実現したい。

#### 5. 大雨対策の改良復旧事業について

- ・ 県内4河川の堤防整備事業について、2021年までに完成予定としているが、建設業者が手一杯の状況で工事契約に至らないケースが発生している。計画どおり整備を進め、次の建設事業に移行していくことが今後の課題。

〈部会員からの主な発言事項と、県側の回答（⇒）〉

### 1. 秋田港アクセス道路（仮称）について

- ・ 既存のアクセスルートにおいて、トレーラーの重量で道路が歪んでいる箇所がある。新ルートの整備にあたり、海コントレーラーの重みに耐えうる構造となるよう配慮して欲しい。
- ・ 県内に進出する航空部品や電子デバイス関連の企業等からアクセス道路が整備されるのであれば秋田港に荷揚げしたいとの提案がある。横浜、東京の港では荷待ち時間の問題があり、仙台だと陸送費がかかり増しとなるためである。アクセス道路完成までにどのくらい期間がかかるのか教えて欲しい。

⇒都市計画変更を経て、これから用地買収等もあるため、工事期間の明言は難しい。

- ・ 都市計画変更手続きを重要物流道路制度への指定も見据え早急に進めて欲しい。そのために我々民間がやるべきことは何か。

⇒民間や地域が望んでいるという皆様の声を上げ続けていただけるとありがたい。

### 2. 重要物流道路制度について

- ・ 当該制度への指定により、機能強化、重点支援がされるとのことだが、予算の優先配分等が見込まれるのか。具体的な支援内容が分かれば教えて欲しい。

⇒「国際海上コンテナ車等の通行に係る許可申請が不要となること」や「災害時の道路啓開・災害復旧を国が代行すること」などが挙げられているが、具体的な支援内容は現時点では不透明な状況。

- ・ 今後、国交省秋田河川国道事務所が本件に関連すると思われる意見交換会を開催する。当部会でも意見交換の場を設け、重要物流道路選定案に対する意見を募りたい。

### 3. 高速道路ネットワークについて

- ・ 「大館能代空港 IC と二ツ井白神 IC 間」の高速道路の早期整備を望む。それにより、大館能代空港で降りた観光客が県北地域を観光しつつ、便数の多い秋田空港から帰るなど、観光客の多様なニーズに対応できる。
- ・ また、青森からの観光客等も日本海側へ行きにくく、岩手県側に流れてしまっているほか、秋田空港に降りた観光客も秋田空港周辺に留まるか、県南に流れる傾向にある。観光客の利便性向上のためにも、基幹道路、交流拠点を繋ぐ道路の整備促進をお願いしたい。

⇒道路が開通することで逆にヒトが流出してしまうというストロー現象という考えもあるが、ヒトの流動性が高まることが重要であり、そのためにも高速道路の全線開通を早期に実現したいと思っている。

### 4. 秋田港について

- ・ 秋田港を活用する会社からトラックの無人輸送を検討して欲しい旨の打診がある。また、韓国の船会社からは、港湾の自動化について検討を始めて欲しいとの打診がある。5年、10年後には北朝鮮の港から貨物が流れ出す可能性も指摘されている。対岸交流が急速に発展する可能性がある今こそ、日本海側の他港と差別化した港湾を目指すべき。そのためにも、横浜港などで行われている港湾自動化に関する実証実験を秋田港に導入していただきたい。

⇒秋田港に実証実験を導入するポイントのひとつは「人手不足の解消」と思っている。今後相談させて欲しい。